



イラスト：永田信行

環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan



表紙のイラスト

各地域の生物多様性を1枚の絵巻にして表現した「つながりんぐ」より抜粋しました。全体は展示室にてご覧いただくことができます。北海道から沖縄まで、300種類以上の動植物が描かれており、日本列島の生きものたちと、人のくらしのつながりが表現されています。



生物多様性センターからのお知らせ

●「生物多様性まつり2012」開催のお知らせ

～ズックと学ぼう！自然のたからもの～

「生物多様性まつり」は生命のつながりについて学んでもらうことを目的として、生物多様性センターで毎年夏に開催しているイベントです。

今年のテーマは「ズックと学ぼう！自然のたからもの」です。パネル展示による日本各地の世界自然遺産や富士山の紹介を行うほか、自然からの恩恵に焦点をあて、草花を使った自分だけのうちわ作りや、風鈴作りなどの工作体験や身近な自然のたからものを探す野外観察会「たからもの探検隊」を行います。毎年好評の普段は公開されていない生物多様性センターの標本収蔵庫を見学する標本収蔵庫ツアーも開催します。

- 日 時：2012年8月5日(日)／ 午前9時～午後5時
- 場 所：環境省生物多様性センター
(富士スバルライン沿い料金所手前)
- 対 象：どなたでも
- 参加費：無料(野外観察会は保険代50円必要)
- 申込み：野外観察会は事前予約が必要
- 問い合わせ

環境省生物多様性センター
山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
TEL：0555-72-6031 (担当：まつり実行委員会)
FAX：0555-72-6032
URL：http://www.biodic.go.jp/



2010年 生物多様性まつり自然観察会の様子

●東日本大震災による自然環境への影響把握のための調査を開始しました

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、特に東北地方太平洋沿岸地域の自然環境に大きな影響を与えました。

そこで、生物多様性センターでは、地震などによる自然環境への影響とそこからの変化状況を把握するため、既存の調査に加え、地震前後の植生、海岸の変化状況を面的に把握する調査や、藻場、干潟などにおける定点調査を開始しました。

また、地震などによる自然環境への影響把握を目的とした調査・研究は大学・NGOなど様々な団体によって既にたくさん行われているため、これらに関する情報の収集も行っています。

現在、調査成果や収集した情報を一元的に管理・発信するためのポータルサイトを整備している最中であり、近日中の公開を目指して作業を行っております。



ウェブページ表示例

●鳥類標識調査のウェブサイトを公開しました

鳥類標識調査は、野鳥に個体識別のための足環などを装着して放鳥し、再捕獲や観察によって情報を収集、解析することによって、鳥類の渡りの実態や様々な生態を明らかにし、鳥類の保全施策やそのための国際協力の推進に役立てる調査です。

わが国では、1924年に農商務省によって初めて行われて以来約90年にわたって続けられており、現在は環境省が公益財団法人山階鳥類研究所への委託事業として実施しています。

全国各地での鳥類標識調査を実際に担っているのは、鳥類の識別について十分な知識を持ち、安全に捕獲して放鳥する技術を身につけていることを認定された鳥類標識調査員（バンダー）です。全国で約450名のバンダーがボランティアとして活躍しています。

この度、鳥類標識調査が継続的にデータが蓄積された1961年～2011年の合計放鳥数が500万羽を超えたことを機に、鳥類アトラスWeb-GISをメインコンテンツとする鳥類標識調査のウェブサイトを公開しましたので、ぜひご覧ください。

URL : <http://www.biodic.go.jp/banding/index.html>



オオミズナギドリ (上) と足環 (下)

●鳥類アトラスWeb-GISとは

鳥類アトラスWeb-GISとは、鳥類標識調査の回収記録をもとに、鳥種ごとの渡りの記録をGoogle Earth上に表示するものです。

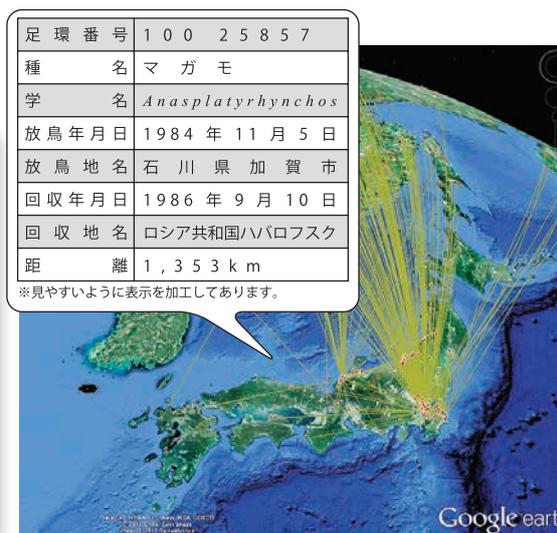
これは2002年に鳥類アトラスとしてまとめられた1961～1995年の回収記録についてWeb-GISとして再編成したものであり、鳥類アトラスからの追加事項として、個体ごとの回収記録について放鳥・回収年月日、性別などの詳細情報も表示されます。また、種ごとの新放鳥数、回収総数を含め、今後新しいデータを追加していく予定です。

多くの鳥種について個体ごとの渡りの記録を視覚的に捉えることができますので、ぜひ鳥類アトラスWeb-GISをご覧ください。

URL : <http://www.biodic.go.jp/birdRinging/top.html>



鳥類アトラスWeb-GIS表示例：表示する鳥種を検索



鳥類アトラスWeb-GIS表示例：マガモの渡りの記録

●ライブカメラについてのお知らせ

生物多様性センターのウェブサイト「インターネット自然研究所」では、日本全国に設置した約60台の固定式ライブカメラを通じて、国立公園の美しい風景、また、野生生物の最新の画像をご覧いただけます。このたび、ライブカメラの増設を行いましたので、より多くの画像を閲覧いただけます。今年度に増設を行った閲覧可能なライブカメラは5月の時点で「瀧沸湖と斜里岳」などの計5箇所です。今後も増設を行っていきます。



尾瀬沼のライブカメラ



洞爺湖のライブカメラ

また、各ライブカメラで撮影した「美しい」

「貴重」と思われる画像を集めた「ベストショット」の公開も行っています。雲一つない澄んだ青空や雨が止んだ後の虹の様子、地平線に落ちていく夕日などの瞬間を、楽しんでいただくことができますようになりました。

映像は日中1時間ごとに更新され、過去数年分の映像がデータベースとして保存されています。過去の日本の季節の移り変わりも合わせてご覧ください。

URL : <http://www.sizenken.biodic.go.jp/>



2012年6月3日の瀧沸湖と斜里岳



2010年10月2日の高谷池と火打山



全国ライブカメラ画像一覧

● 植生調査ウェブサイトリニューアルのお知らせ

自然環境保全基礎調査植生調査のウェブサイト全体のデザインを更新しました。また、第6回・第7回植生調査で整備された1/2.5万植生図と併せて、第5回以前の植生調査で整備された1/5万植生図の画像データとGIS形式データの提供を開始しました。このため、これまでのウェブページのタイトルであった「第6回・第7回植生調査」の表記から「第6回・第7回」を外して、統合的な植生調査情報提供サイトとしました。

URL : <http://www.vegetation.jp/index.html>



植生調査ウェブページ



ダウンロードページ「富士山」

● 東南アジアで分類学の研修を行いました

生物多様性の調査には、種の同定をはじめとした分類学の知識が必要となります。そのため、生物多様性センターでは、東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ(ESABII)の事務局として、分類学の知識をもった人材を育成するために、東南アジアの国々で研修を実施しています。2012年2月には、カンボジアで絶滅のおそれのあるカメ類についての研修、同年3月には、インドネシアで植物についての研修を行いました。



インドネシアでの野外実習風景

● 『新宿御苑みどりフェスタ2012』に出展しました

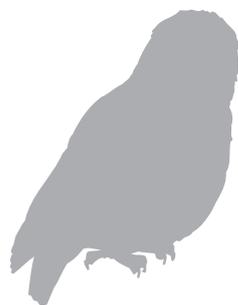


スックちゃん(中央)と生物多様性キャラクターのサトくん(左)タヨちゃん(右)

毎年新宿御苑で行われる「新宿御苑みどりフェスタ2012」が4月29日に開催され、生物多様性センターから富士北麓周辺の生きものの展示や粘土で生きものを作るコーナーなどの出展をしました。当日は天候に恵まれ、たくさんの方々にご参加いただきました。また、生物多様性センターのマスコットキャラクターであるズックちゃんは元気に歩きまわり、子ども達に囲まれ大人気でした。

生物多様性センターでは、今後もさまざまなイベントに参加し、「生物多様性」について皆様にご覧いただくための普及啓発活動を続けていきます。

生物多様性センターに収蔵している標本の紹介 第22回



和名/フクロウ
学名/*Strix uralensis*
RDBカテゴリー/なし
分類/フクロウ目フクロウ科

●夜の支配者

フクロウは全長48~52cm、翼開長94~110cm、ハート型の顔を縁取る羽毛(顔盤)が特徴的で、日本では留鳥として九州以北に広く分布しています。人間の何倍もの光を感知する眼で闇夜でも活動することができ、夜間の生態系ピラミッドの頂点に位置する存在とされています。ミミズクなどの他のフクロウ類に特徴的な、頭部の上方に突き出た耳のように見えるものを羽角(うかく)といいますが、フクロウにはこの羽角はありません。また、フクロウの風切り羽根はとてもやわらかく、ノコギリ状のギザギザがあり、空気を拡散することで、音を立てずに静かに飛行することができます。



フクロウ本剥製 当センター所蔵



幼鳥は巣から出てすぐには飛べないため、しばらくは周辺の枝の上で生活する。

●闇の中での暮らし

平地から山地の林内に生息しており、夜行性で、昼間は樹洞や木の茂みなどで休んでいます。食性は動物食で、主にネズミなどの小型哺乳類を食べ、小型の鳥類や昆虫などを食べることもあります。繁殖は春先に行われ、主に大木の樹洞に巣を作ります。場所は山地の森林から神社の社叢林など幅広く、巣箱や他の猛禽類の古巣のほか、地面に開いた穴、岩棚などまで利用することが知られています。親鳥はひながかえるまで1か月近く抱卵します。幼鳥は全身が白い羽毛で被われ、飛べるようになるまでは親に見守られながら枝の上などで生活します。

●富士山周辺のフクロウ

富士山周辺においても、フクロウが数多く生息していることが知られています。溶岩上に発達した森林帯と隣接する草原環境があることで、主食であるネズミ類が非常に多く生息し、効率的な狩場が点在していること等が関係していると考えられます。夜行性なので普段はあまり目にする機会のない鳥ですが、早朝または夕方には、たまに畑や牧草地周辺の雑木林の枝にとまっている姿を目撃することがあります。また、子育て期間中には、日暮れ以降の時間帯になると、富士山麓の林の奥から響いてくる「ヴォヴォ……ヴォッヴォ…」という独特な鳴き声をあちこちで聞くことができます。意外と私たちの身近な場所で生活しているフクロウですが、皆さんも人知れず子育てをしている様子を想像しながら、夜に耳を澄ましてみてはいかがでしょうか。



昼間はじっとしていることが多い。

参考文献：白石浩隆・北原正彦(2007) 富士山北麓における人工巣を利用したフクロウの繁殖生態と給餌食物の調査. 富士山研究第1巻. pp17-23.
BIRDER編集部(2007) フクロウ. 文一総合出版. 22p.

● 収蔵標本リストを公開しました

生物多様性センターでは、希少野生動植物をはじめとする重要な生物標本を収集、保存し、普及啓発や調査研究等に役立てています。創立から14年目を迎えた平成24年4月には、収蔵点数が約65,000点に達しました。本年度から、哺乳類・鳥類・昆虫類・維管束植物など一部の分類群については、収蔵標本リストを生物多様性センターウェブサイトで公開しています。

収蔵標本リストでは、和名や採集年月日などの標本情報を閲覧いただける他、約3割の標本には画像を掲載しましたので、これらについては、ウェブページ上から標本細部の観察を行うことができます。また、現在整備中の収蔵標本についても、準備ができ次第、公開する予定です。

URL : http://www.biodic.go.jp/center/hyouhon/HP_top.html

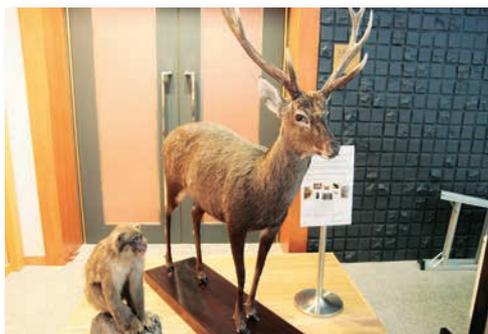
哺乳類 - Mammalia -
生物多様性センターに収蔵されている哺乳類標本の一覧です。和名をクリックすると、
【詳細として「和名」「学名」「科名」「性別」「生活型・世代型」「採集場所」「採集年月日」が表示されます。

No.	和名	学名	標本の形態	目名	科名	性別	生	本番号
1	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	骨格標本	ネズミ目	ネズミ科	male(オス)	adult(成獣)	MAM-2
2	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	仮剥製	ネズミ目	ネズミ科	male(オス)	adult(成獣)	MAM-25
3	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-23
4	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-26
5	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-29
6	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-27
7	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-30
8	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-31
9	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-32
10	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-61
11	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-62
12	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-63
13	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-64
14	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-65
15	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-66
16	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-67
17	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-68
18	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-69
19	アナグマ	<i>Meles meles</i>	仮剥製	ネコ目	イタチ科			MAM-70

収蔵標本リスト：哺乳類の一例（アナグマ本剥製）

● 標本展示のお知らせ

富士北麓の身近な野生生物の代表であるニホンジカとニホンザルの本剥製をはじめ、キツネやアナグマの毛皮標本をエントランスホールにて展示しています。より近くでゆっくりと観察していただける他、さわれる展示（ハンズオン展示）としておりますのでお越しの際はぜひご覧ください。



ニホンジカ・ニホンザル本剥製のハンズオン展示



ヤンバルクイナ本剥製の展示

また、展示室（つながりうむ）とエントランスホールに設置した標本展示ケースでは、現在ヤンバルクイナとノスリの本剥製を展示中です。普段はなかなか見られない希少野生動植物をはじめとする収蔵標本を、順次入れ替えながら展示する予定です。今後の展示にもご期待ください！

施設紹介

センター長からのあいさつ



昨年9月からセンター長を務めている奥山です。2010年の国連地球生きもの会議(生物多様性条約COP10)を経て「生物多様性」という言葉は広まってきましたが、まだまだ誰もその重要性を理解しているわけではありません。また、昨年3月の東日本大震災によって、あらためて自然の力を思い知らされた私たちには、自然と上手に折り合える社会を復興し次世代につなぐことが求められています。

生物多様性センターでは、自然環境や生態系の変化を的確にとらえ、その情報を使いやすい形で広く提供するという重要な役割をこれまで以上に充実、強化していきたいと考えています。多様で豊かな生物の世界がどのように支え合い成り立っていて、そこから私たちがどんなに多くの恵みを受けているか、科学的な視点からわかりやすくお伝えする取組も推進していきます。

今後ともご支援ご協力をよろしく願っています。

センター長 奥山 正樹

展示室 つながりうむ

生物多様性センターでは、生物多様性に関する「？」へのヒントが詰まった展示室を設けています。生物多様性を保全することの大切さをわかりやすく伝えます。



展示ロビー

ふくろう文庫では、いすに座ってくつろぎながら、本を読むことができます。また、つながりの木には、生きものと一緒に生きていくためにみんなができることを書いてもらっています。



図書資料閲覧室

生物多様性センターでは、生物多様性に関する図書や各種文献などを収集・保管しています。これらの図書や文献資料は、図書資料閲覧室で閲覧することができます。



利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 冬季期間(12月～4月)の土日祝日
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料
- 団体でご利用される場合は、事前にご連絡をお願いします。
- 図書資料のご利用は平日のみです。
- 図書資料の貸し出しは行っておりません。

交通案内

- 富士急行河口湖駅または中央高速バス河口湖駅下車タクシーで約15分
- 中央自動車道河口湖ICまたは東富士五湖道路富士吉田ICより車で約15分



環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
ウェブページアドレス <http://www.biodic.go.jp/>
TEL 0555-72-6031 FAX 0555-72-6032・6035



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。